

令和元年6月16日(日)宮城県仙台市の東北大学大学院医学系研究科・医学部星陵キャンパス臨床講義棟にて、東北支部学術集会が昨年同様、日本東洋医学会宮城県部会と同時開催されました。やや梅雨寒でしたが、昨年よりも多い71名の方にご参加いただき、盛会となりました。



シンポジウム「相互理解のための漢方と鍼灸それぞれの視点—認知症—」では、東北大学病院 加齢・老年病科 講師 富田尚希先生(右)、東北大学大学院医学系研究科 漢方・統合医療学共同研究講座 特命教授 高山真先生(中) 赤門鍼灸柔整専門学校 臨床教育専攻科 専任教員 浦山久嗣先生(左)の3名の

先生方から、認知症の病態や診断および漢方薬や鍼灸による治療についてお話いただきました。周辺症状の改善や、フレイルに対する日常動作の改善効果の発表内容があり、その中で支持的精神療法の重要性について触れられ、患者さんと関係性を築きやすいという点で鍼灸治療が有効である点が指摘されました。



特別講演では、龍華鍼灸院 院長 田中一行先生に、「創傷治癒機転に基づく美顔はり」という演題でお話いただきました。美容を目的に鍼灸治療する経緯、そして美容鍼灸に対し向き合う覚悟のお話は特に学生の方々への熱いメッセージとなりました。またICCO式美顔はりの美容効果や皮膚再生の機序を丁寧にご説明いただき、実際の治療の様子もご紹介いただき、田中先生のエビデンスに基づいた治療技術の奥深さに感嘆いたしました。さらなる展望や発展のお話もあり、今後の展開に注目していきたいと思いました。

学生発表として、福島県立視覚支援学校より、「刺激の違いが自律神経に及ぼす影響について～風池穴への鍼通電による深部温度と血圧変化～」小椋栄二さん 佐藤裕香さん、赤門鍼灸柔整専門学校より、「天に五音あり、人に五臓あり～五音の東洋医学的診断の意味をさぐる～」曳野哲也さん、「ごう鍼の鍼先の形状と使用後の摩耗状態について」石川一男さん。一般口演として、福島県鍼灸師会 柏原修一先生、福島県立医科大学会津医療センター 鈴木雅雄先生、三瓶鍼療院 三瓶真一先生より症例・調査報告をしていただきました。



次回は9月29日(日)岩手県盛岡市 盛岡医療福祉専門学校を会場としてA/B講座を開催します。詳細はホームページにてご確認ください。